

問1 1980年代後半以降の日本では、円高の影響などによって国内の企業が工場などの生産拠点を海外へ移転させる動きが加速しました。これにより、国内の製造業が衰退し、雇用機会が失われたり技術力が低下したりする問題が発生していますが、このような現象を何と呼びますか。 (2025年 茨城公立入試 類似)

1. 産業の空洞化 2. 貿易の自由化 3. 経済のサービス化 4. 食料自給率の低下

問2 日本の人口ピラミッドの推移について述べた文として、最も適切なものを選択してください。 (2021年 高知公立入試 類似)

1. 戦前の1940年ごろは、出生率が高く若年層が最も多い「富士山型」の形状であった。 2. 1990年ごろは、若年層が最も厚く、高齢層に向かって急激に細くなる形状であった。 3. 2015年ごろは、出生率の上昇により、ピラミッドの裾野が再び広がる形状に変化した。 4. 1960年代は、平均寿命の延伸が止まったため、高齢層が極端に少ない形状を維持していた。

問3 日本の都道府県別の農業産出額の内訳を比較したとき、各地域の自然条件に応じた産業構造の違いが見られます。例えば、ある県では水資源の豊かさを背景に農業産出額の約7割を米が占め、別の県ではシラス台地の広がる土地条件を活かして畜産が全体の6割以上を占めています。後者の「畜産が全体の6割以上を占める」という特徴を持つ都道府県として正しいものを選びなさい。 (2026年 高知公立入試 類似)

1. 鹿児島県 2. 富山県 3. 岡山県 4. 千葉県

問4 鹿児島空港や熊本空港の統計データによると、入国者の大半を韓国、香港、台湾などの出身者が占めています。例えば、鹿児島空港における香港からの入国者割合（41.8%）や、熊本空港における韓国からの入国者割合（58.6%）は、全国平均と比較しても非常に高い数値です。これらの空港に見られる特徴的な状況の説明として正しいものを選びなさい。 (2019年 鹿児島県公立入試 類似)

1. 近隣のアジアの国や地域と国際線で結ばれ、そこからの入国者が全国平均より高い割合を示している。 2. アメリカやヨーロッパなどの遠方から入国した人の割合が大きく、世界規模の国際ハブ空港として機能している。 3. 国際定期便のほとんどが貨物輸送に特化しており、観光目的の旅客による入国者の割合は極めて低い。 4. 近年はアジア圏との結びつきが弱まっており、代わってオセアニア地域からの入国者が最も多い割合を占めている。

問5 東北・北陸地方の各県における農業産出額の内訳を比較したとき、新潟県や富山県では「米」の占める割合が非常に高く、農業産出額の7割前後が稲作によるものです。これに対し、最上川流域の盆地などを中心に「果実」の生産が盛んで、他の2県に比べて農業産出額に占める果実の割合が統計上明らかに高い県はどこですか。 (2019年 滋賀公立入試 類似)

1. 山形県 2. 新潟県 3. 富山県 4. 福島県

問6 大都市圏に近い地域において、製造品出荷額の内訳の中で「印刷」に関連する工業が一定の割合を占める主な理由として、最も適切な説明を次の中から選びなさい。 (2019年 福島県公立入試 類似)

1. 出版社や広告代理店などの発注元や消費者が集中しており、情報の収集や迅速な納品を行う上で有利なため。 2. 海外から輸入した大量のパルプや原油を、大型船から直接工場へ搬入して効率的に加工できるため。 3. 内陸部の広い用地を確保しやすく、製品を全国に配送するための高速道路網が最も整備されているため。 4. 高度な技術を持つ労働者を確保しやすく、ロボットを用いた自動化ラインによる大量生産に適しているため。

問7 2016年の米の収穫量上位5都道府県の統計をみると、1位の新潟県（8.4%）、3位の秋田県（6.4%）、4位の山形県（4.9%）、5位の宮城県（4.6%）と、北陸・東北地方の各県が上位を独占しています。この統計において、新潟県に次ぐ全国2位（シェア7.2%）の収穫量を誇る都道府県はどこですか。 (2019年 千葉県公立入試 類似)

1. 北海道 2. 岩手県 3. 富山県 4. 福島県

問8 日本の食料輸入と仮想水（バーチャルウォーター）の関係について、日本の畜産業が抱える課題を含めて説明した文として正しいものはどれですか。 (2023年 愛知公立入試 類似)

1. 日本は飼料作物の多くを海外からの輸入に依存しているため、畜産物を通じて間接的に大量の仮想水を輸入しており、海外の水資源の影響を受けやすい状況にある。 2. 日本は主食である米の自給率が高いため、飼料作物の輸入が停止しても、国内の畜産物供給や仮想水の需給バランスに大きな影響は出ない。 3. バターなどの畜産物は、米や野菜などの農産物と比較して生産に必要な水の量が極めて少ないため、仮想水の観点からは輸入によるメリットは小さい。 4. 仮想水は飲用水の不足を補うための概念であるため、工業用水や農業用水を十分に確保できている日本においては、食料自給の議論とは無関係である。

問9 宮崎県などの温暖な地域では、冬から春にかけてピーマンなどの野菜を栽培する「促成栽培」が盛んです。東京都中央卸売市場の統計において、ピーマンの価格は冬から春にかけて高くなり、夏に安くなる傾向があります。この状況を踏まえ、農家が促成栽培を行う最大の目的を説明したものととして、最も適切なものはどれですか。 (2023年 鹿児島県公立入試 類似)

1. 他の産地からの出荷量が少なく、市場価格が高い時期に出荷することで、高い収益を得るため。 2. 消費地である大都市に近接している利点を活かし、輸送コストを抑えて新鮮なうちに販売するため。 3. 標高の高い地域の涼やかな気候を利用して、他の産地の収穫が終わる夏から秋に時期をずらして出荷するため。 4. 冬の厳しい寒さを利用して、害虫の発生を抑えながら農薬の使用量を減らした安全な野菜を作るため。

問10 日本の農業では、農産物の価格を安定させたり利益を上げたりするために、出荷時期を調整する工夫が行われています。ある農産物の統計において、他の多くの都道府県からの出荷量が少ない時期を狙って大量に出荷することを何と呼び、どのような目的で行われますか。 (2022年 福岡県公立入試 類似)

1. 端境期（はざかいき）の出荷と呼び、供給が不足し価格が上がりやすい時期を狙って有利に販売する目的 2. 閑散期の出荷と呼び、農作業の負担が少ない時期に人手不足を解消しながら効率的に販売する目的 3. 適地適作の出荷と呼び、その土地の気候に最も適した時期に全国一斉に大量販売する目的 4. 連作障害の回避と呼び、土壌の養分を維持するために収穫時期をあえてずらして販売する目的

問11 九州地方の農業産出額の内訳において、米の割合が約7%にとどまる一方で、畜産の割合が約46%と全国的にも非常に高くなっている理由として、最も適切な説明はどれですか。 (2026年 沖縄公立入試 類似)

1. 南九州を中心に分布する水持ちの悪いシラス台地において、広大な土地を活かした肉牛や豚などの飼育が盛んに行われているため。 2. 冬の降雪量が多く農作業が制限されるため、安定した収入が得られる工芸作物の栽培と酪農を組み合わせた経営が主流だから。 3. 大都市圏への出荷を目的として、鮮度が重要視される野菜や果樹の生産に特化しており、家畜の飼育は副次的なものだから。 4. 平坦な土地が少なく大規模な水田開発が困難であったため、山間部を中心に羊やヤギなどの小規模な放牧が伝統的に行われてきたから。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 産業の空洞化	円高が進むと、日本製品の輸出価格が上がり国際競争力が低下するため、企業はコストの低い海外での現地生産を増やしました。この結果、国内の工場が閉鎖されたり縮小したりして、製造業を中心に国内産業の衰退を招くことになりました。この現象は、あたかも国内産業の中身がなくなってしまう様子に例えて呼ばれます。
問2	答え 1 戦前の1940年ごろは、出生率が高く若年層が最も多い「富士山型」の形状であった。	日本の人口ピラミッドは、戦前の多産多死に近い「富士山型」から、戦後の出生率低下に伴う「釣鐘型」、そして現在の少子高齢化を反映した「つぼ型」へと変化してきました。1990年ごろは団塊の世代などが働き盛りの世代として厚くなっており、2015年ごろには若年層がさらに減少し、高齢層の割合が非常に高い「つぼ型」が鮮明になっています。
問3	答え 1 鹿児島県	鹿児島県は、火山灰が堆積してできたシラス台地が広く分布しており、水持ちが悪いため稲作に不向きな土地が多く存在しました。この広大な台地を利用して、豚や鶏、肉用牛などの飼育が発展し、農業産出額において畜産が占める割合が非常に高いという特色を持っています。一方、選択肢にある富山県は、北陸地方の豊かな水資源を活かした稲作単作地帯として知られ、米の産出割合が極めて高いのが特徴です。
問4	答え 1 近隣のアジアの国や地域と国際線で結ばれ、そこからの入国者が全国平均より高い割合を示している。	地方空港の国際化においては、その地域の地理的特性が強く反映されます。鹿児島空港や熊本空港の場合、ソウル、大邱、台北、高雄、香港といったアジアの主要都市と直接結ばれているため、全国平均（韓国22.1%、香港6.7%など）を大きく上回る割合で近隣諸国からの入国者が集まります。これは日本の諸地域が、国単位の平均とは異なる独自の国際的なネットワークを形成している具体例といえます。
問5	答え 1 山形県	山形県は全国有数の米どころであると同時に、さくらんぼ（おうとう）や西洋なし（ラ・フランス）などの果樹栽培が非常に盛んな地域です。統計上、新潟県や富山県が極めて稲作に特化した農業構造（米の割合が約70～80%）を持っているのに対し、山形県は果実の産出額が全体の約25%程度を占めるなど、稲作と果樹栽培のバランスが良いという特色があります。
問6	答え 1 出版社や広告代理店などの発注元や消費者が集中しており、情報の収集や迅速な納品を行う上で有利なため。	印刷業は、新聞、雑誌、広告、パンフレットなどを製造する産業であり、常に最新の情報を取り扱う必要があります。そのため、情報を発信する出版社や多くのクライアント、そして膨大な消費者が存在する大都市圏に立地することで、市場のニーズに素早く対応し、輸送コストや時間を削減できるという「市場志向型」の立地特性を持っています。
問7	答え 1 北海道	広大な石狩平野などを抱える北海道は、かつては寒すぎて稲作には不向きとされていましたが、品種改良によって寒さに強い品種が開発されたことで、新潟県と並ぶ日本最大級の米どころとなりました。統計資料において、北陸や東北の各県に混じって上位にランクインする大規模な農業県であることを見極めることが重要です。
問8	答え 1 日本は飼料作物の多くを海外からの輸入に依存しているため、畜産物を通じて間接的に大量の仮想水を輸入しており、海外の水資源の影響を受けやすい状況にある。	日本の食料自給率はカロリーベースで低く、特に畜産業においては、家畜の餌となるトウモロコシや大豆などの飼料作物の大部分を海外に頼っています。仮想水の考え方当てはめると、日本は食料の輸入を通じて生産地の水資源を大量に消費していることとなります。そのため、輸出国の干ばつや社会情勢の変化によって飼料作物の輸入が滞ると、日本の畜産物供給が不安定になるというリスクを抱えています。これは日本の食料安全保障を考える上で重要な視点です。
問9	答え 1 他の産地からの出荷量が少なく、市場価格が高い時期に出荷することで、高い収益を得るため。	促成栽培は、宮崎県や高知県などの冬でも温暖な気候やビニールハウスなどの施設を利用して、作物の成長を早める栽培方法です。市場では供給量（出荷量）が少ない時期ほど価格が上昇する仕組みがあるため、他の地域からの出荷が少ない冬から春に収穫時期を合わせることで、有利な価格で販売し、農家の収益を増やす工夫がなされています。
問10	答え 1 端境期（はざかいき）の出荷と呼び、供給が不足し価格が上がりやすい時期を狙って有利に販売する目的	農作物の価格は市場での需要と供給のバランスで決まるため、他の産地からの出荷が減る「端境期」に大量に出荷することで、通常よりも高い価格で販売することが可能になります。例えば、長野県のレタスは他の地域が暑さで生産できない夏に、高知県のなすは他の地域が寒さで生産できない冬から春にかけて、この端境期を狙った出荷を行っています。
問11	答え 1 南九州を中心に分布する水持ちの悪いシラス台地において、広大な土地を活かした肉牛や豚などの飼育が盛んに行われているため。	鹿児島県や宮崎県に広がるシラス台地は、稲作に必要な水を保持しにくい性質を持っています。この土地条件を克服するために、サツマイモなどの畑作や、肉用牛、豚、鶏などの畜産が大規模に展開されました。この結果、九州地方は日本屈指の畜産地帯となり、農業産出額の構成においても畜産が突出して高い割合を示す要因となっています。